

国際化学肥料ニュース (2023年3月)

肥料業界の2023年3月動態

- * 3月3日に開札されたインドIPL社の尿素国際入札は、19社が応札し、応札数量327.4万トン(西海岸169.7万トン、東海岸148.7万トン)。最近の尿素国際相場の下落を受け、最低応札価格はOQ Trading社のCFR西海岸330ドル/トン、Liven社のCFR東海岸334.8ドル/トンである。前回(2022年11月)尿素国際入札の最低応札価格に比べ、243~244ドル安くなった。

- * 2月末発表、3月3日に開札されるインドの尿素国際入札にもかかわらず、3月第1週(2月27日~3月5日)の尿素国際相場は下落の傾向が止まらなかった。主にロシア産尿素のバルト海と黒海のFOB価格が300ドル/トン以下に下がって、中東と北アフリカ産尿素(大粒尿素も含む)が軒並み350ドル/トン未満となった。中国産尿素とマレーシア、インドネシア産尿素が辛うじて370~400ドル台にとどまっている。昨年同期に比べて、6割以上の下落である。

- * インドRCF社は2月10日に開札された3.5万トンリン鉱石の国際入札をキャンセルした。この入札に6社が応札し、そのうち4社がヨルダンのリン鉱石、2社がセネガルのリン鉱石である。応札価格がCFR218.5~238.95ドル/トンで、最低応札価格がAgrifields社のヨルダンりん鉱石のCFR218.5ドル/トンである。RCF社の予測価格より大幅に超えたため、キャンセルことになった。

- * バングラデシュのBCIC社は再び2.5万トンのリン鉱石の国際入札を発表した。3月17日開札、リン鉱石のP2O5含有量が32%以上という条件である。今年1月17日に開札された前回のリン鉱石の国際入札には、同じ2.5万トンリン鉱石の入札にただ1社の応札があり、ヨルダンりん鉱石のCFR価格329.85ドル/トンで、入札条件に満たさないという理由で、キャンセルされた過去がある。

- * 2月中旬から天然ガスの国際価格の急落に伴い、アンモニアの国際相場が弱気を示している。4月上旬納品の中東産アンモニア価格がCFRトルコでは500ドル/トン台前半に、北アフリカ産アンモニアのCFREU価格も500ドル/トン未満に下落したとの情報がある。

- * 3月3日開札されたインドIPL社の尿素国際入札はCFR西海岸330ドル/トン、東海岸334.8ドル/トンの価格で115万トンの購入を決定した。尿素はほとんどロシアと

中東産のもので、中国尿素は応札価格が高いうえ、中国政府の「法定検査」で輸出時期が確定できないという理由で、今回の購入から排除される。

- * アメリカ農務省（USDA）は Ostara 社がミズーリ州セントルイス市に建設中の新工場に 760 万ドルの助成金を与えると発表した。この新工場は 2023 年夏に完成し、年間 20 万トン新規りん安肥料（商品名：Crystal Green、成分：5N-28P-0K -10Mg）を生産する。

Ostara 社の CEO Ron Restum 氏は「Crystal Green は、USDA プログラムのすべての基準を満たし、環境を保護しながら優れた農業性能を提供する、市場で入手可能な唯一の粒状リン酸肥料です」および「Crystal Green のユニークな有機酸溶解度は、土壌中に養分を保持し、土壌固定、降雨と灌漑の流失と浸出による養分の損失を最大限に抑え、作物の能力を最大化するために利用できます。生産の拡大は、農業コミュニティから非常に歓迎されるでしょう。」と述べた。

- * 3 月第 2 週（3 月 6～12 日）の尿素国際相場はインド IPL 社の国際入札結果を受け、下落が続いている。特にロシア産尿素が FOB270 ドル／トン台に、中東産尿素も 300 ドル台に下落したが、中国尿素とインドネシア、マレーシア尿素がまだ 350～380 ドル／トンに頑張っている。また、大粒尿素の CFR ブラジル価格が 320～330 ドル／トンに下がって、2020 年 12 月のレベルまで戻った。

- * 中国税関の速報によれば、2023 年 2 月中国の化学肥料輸出数量 164 万トン、その内訳は硫安 89 万トン、尿素 17 万トン、DAP9 万トン、MAP15 万トン。2022 年 12 月中国政府は「ゼロコロナ」政策を放棄してから経済を回復させるために今まで厳しく規制されていた化学肥料の輸出を緩めて、2023 年 1～2 月の輸出量が 40.9%増の 359 万トン、2023 年 1～2 月の尿素輸出量 41 万トン、DAP37 万トン、MAP35 万トン、「法定検査」実施前の 2021 年 1～2 月と同等の水準まで回復された（2021 年 1～2 月の尿素輸出量 43 万トン、DAP40 万トン、MAP39 万トン）。

一方、2023 年 2 月中国化学肥料輸入量 79 万トン、その内訳は塩化加里 69 万トン、NPK 化成肥料 9 万トン。

- * 2023 年 1～2 月の中国尿素輸出量が 41 万トンに戻された。1 月尿素の主な輸出先はインド 8.7 万トン、韓国 3.9 万トン、マレーシア 1.5 万トン、日本 1.3 万トン、ミャンマー 1.2 万トン、平均 FOB 価格 489 ドル／トン。2 月尿素の主な輸出先はメキシコ 4.7 万トン、韓国 2.9 万トン、チリ 2.2 万トン、平均 FOB 価格 475 ドル／トンである。

- * EUは春シーズンの必要な肥料を確保するために、3月から輸入アンモニアと尿素に対する6.5%輸入関税の徴収を一時停止することを発表した。ただし、ロシアとベラルーシ産尿素は関税免除の枠から除外し、引き続き輸入関税を徴収する。
- * ロシア政府は新の化学肥料輸出関税政策を発表した。すべての化学肥料のFOB価格が450ドル/トンを超えた部分に対して、23.5%の輸出関税を徴収するという内容である。
- * 3月第3週(3月13~19日)の尿素国際相場の下げ傾向が止まらない。買手が積極的に参入していないため、ロシアとイラン産尿素のFOB価格が250~260ドル/トン、中東尿素もFOB310ドル/トンに低下し、CFRブラジルとメキシコの価格も305~320ドル/トンに下がった。化学肥料輸出を規制している中国産尿素はFOB350~360ドル/トンで、市場の最高値となっている。一部の中国商社が外国から尿素を輸入する動きが見られ、4月に最初の尿素が輸入される見込みである。
- * 3月21日、インドネシアのPupuk社が行った塩化加里の国際入札が締切り、開札された。最低入札価格はロシア品のCFR450ドル/トンである。Pupuk社は2月に塩化加里の国際入札を発表したが、塩化加里の国際相場が下落し続けているため、締切り時期を2回も遅らせた。今回の入札結果からインドおよび中国が加里大手メーカーとの間に商談中の2023年塩化加里輸入基本契約のCFR価格は450ドル/トンよりさらに10~30ドル/トン安くなる見込みである。
- * 3月24日、ロシア政府農業大臣は現在実施されている化学肥料の輸出割当制度を2023年11月30日までに延長することを検討していると述べた。2021年11月3日、ロシアは国内市場への供給量を確保し、肥料価格の上昇を抑えるために化学肥料の輸出に割当数量制度を導入した。最初は2022年5月まで限定措置とされたが、その後は2回も延長され、2023年3月末とされている。今回の延長が決めれば、3回目の延長になる。
- * 3月第4週(3月20~26日)の尿素国際相場が小幅に下がっている。ロシア産尿素がFOB245~255ドル/トンとなり、2021年1月と同じ価格帯まで下がった。中東産尿素がFOB300~305ドル/トンに低下し、中国産尿素も345~360ドル/トンに下がった。
- * ロシア政府は硝安の輸出割当数量を30万トン増やして、2023年5月31日までの1年間の化学肥料輸出割当数量を1260万トンにした。ロシア政府報道局に声明によれ

ば、輸出数量の割当は工業省が各肥料メーカーと輸出商社の状況に応じて配分して、国内肥料需要を完全に満足させる前提で余った製品を輸出することになる。

* 3月25日、インドNFL社は5万トンDAPの国際入札を発表した。4月10日締め切り、1社の最低入札量が2.5万トン以上と規制されている。

* 需要不足のため、3月のアンモニアの国際相場が暴落した。メーカーと商社は買い手を市場に引き戻すため、多くの低価格スポット取引が成立した。三菱商事は4月積みみのインドネシア産アンモニア2件をFOB310ドル/トンで中国のHenan Energy社とSailboat社に販売して、三井商事とOQ Trading社はカタールとオマーン産アンモニア2.5万トンを350ドル/トン台の割引価格で日本に輸入する。また、サウジアラビアのMa'aden社は4月に6船計15万トンアンモニアを東アジアに、アメリカのTrammo社は北アフリカ産アンモニア5万トンをEUに輸出する予定である。4月以降、トルコとインドからの注文が少ない場合は、価格がさらに下がる可能性があるかもしれない。下の図は2022年4月から2023年3月までのアンモニア国際価格の推移を示す。



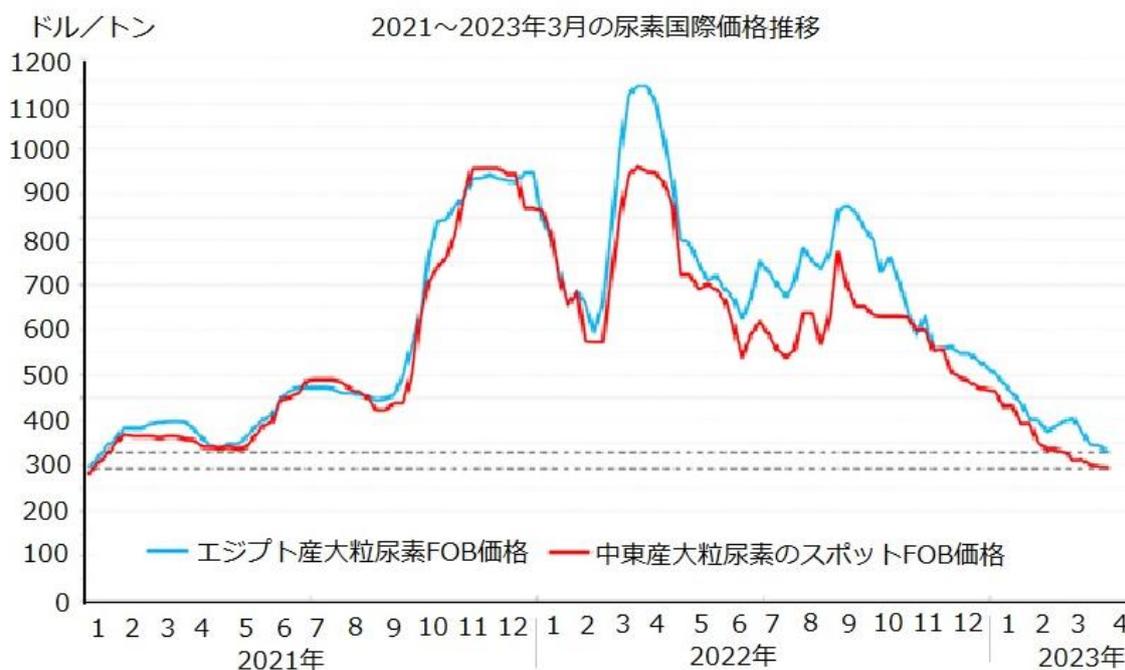
2022年4月～2023年3月のアンモニア国際価格推移

* マレーシアのNafas社は2万トン塩化加里の国際入札を発表した。インドのIPL社もネパールのために5000トンの塩化加里国際入札を行う。ともに4月2日締め切り、開札される予定である。

* 6月からのモンスーン季節の肥料需要を満たすために、バングラデシュ政府購買委員会 (CCGP) は国営BADC社がモロッコOCP社から4万トンDAP (CFR610ドル/ト

ン)と国営 BCIC 社が 3 万トン化成肥料 (CFR327.62 ドル/トン) の輸入を許可した。

* 2023 年第 1 四半期に尿素の国際価格が急落した。中国の輸出規制が続いているが、尿素不足という供給面の不安はもはや懸念事項ではない。また、尿素貿易はロシアに対する輸出制裁の環境に適応している。東半球のサプライヤーにとって、最大需要家のインドが国内生産の増加により、尿素輸入減が一番の痛手である。インドは 3 月 3 日に尿素の国際入札を行ったが、購買量が 110 万トンだけで、ロシア産尿素も一部入っている。東半球の需要が不十分で、東南アジアと中東メーカーが在庫を捌くためにヨーロッパ、トルコ、ラテンアメリカに積極的に売り込み、競争の激化と悪天候により、ピークシーズンの需要に先立って市況を圧迫する。3 月末現在、中東産尿素のスポット FOB 価格が 300 ドル/トンを下回り、2021 年 1 月より安くなっている。北アフリカ産尿素の CFR ヨーロッパ価格も 330 ドル/トンまで下落した。下の図は 2021 年 1 月～2023 年 4 月上旬までの尿素国際価格の推移を示す。



* 4 月 5 日、インド IPL 社はカナダの Canpotex 社およびロシアの Uralkali 社との間に 2023 年の塩化加里輸入基本契約を締結した。CFR 価格 422 ドル/トン、2022 年の CFR590 ドル/トンより 168 ドルも下がった。また、この基本契約は 2023 年 9 月 30 日までの 6 ヶ月に限定されるものである。

大手各社の営業業績

* ドイツの K+S 社は 2022 年業績を公表した。加里肥料などの農業製品販売量が 6.6% 減の 710 万トンだが、販売価格の高騰で、総売上高が 76.7% 増の 56 億 7660 万ユーロ、EBITDA が 127% 増の 24 億 2290 万ユーロである。

* 中国最大の加里メーカー国営塩湖社は 2022 年の業績を公表した。塩化加里生産量 580 万トン、販売量 494.11 万トン、中国国産加里シェアの 73.2% を占めている。主業の塩化加里とリチウムの価格高騰により、売上高が 108.06% 増の 307.48 億人民元（約 44.9 億ドル）、純利益が 247.55% 増の 155.65 億ドル（約 22.7 億ドル）。そのうち加里事業の売上高が 60.03% 増の 173.01 億人民元（約 25.3 億ドル）、炭酸リチウム事業の売上高が 531.47% 増の 114.58 億人民元（約 16.7 億ドル）。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

* タイ政府はある加里鉱山開発プロジェクトを再検討している。当該プロジェクトは数 10 年前に提出されたもので、タイ東北部の Chaiyaphum 県にある加里資源を開発するもので、年間塩化加里 130 万トンを生産する計画である。しかし、環境に悪影響を及ぼす恐れがあるという理由で、開発計画が許可されていないが、近年の隣国ラオスの加里鉱山開発成功事例を見て、タイ政府も態度を変える可能性が出ていた。

その他

* 格付け会社の Fitch Ratings 社はレポートを発表し、天然ガス価格の低下、供給過剰、需要の回復が予想よりも遅いことを反映して、2023 年のアンモニア、2023~24 年の尿素と加里の予想価格を引き下げた。その他の肥料の予想価格に変更がない。

アンモニアについては、天然ガス価格の低下と生産能力の増加、2023 年第 1 四半期の需要の低下を反映するほか、2023 年第 4 四半期と 2024~25 年に新規生産能力の増加もあることで、その予測価格を引き下げた。

尿素については、天然ガス価格の下落に加え、ロシア、イラン、ベネズエラなど経済制裁の対象国からの製品は引き続き市場に出回るほか、中国は 2023 年春季に実施されている輸出制限を緩和し、輸出を増加させると予想される。また、エジプト、トルコ、ロシア、バングラデシュでは、2022 年に約 800 万トンの新規生産能力が追加された後も 2023 年から 2024 年にかけてさらに新規尿素生産能力の追加が期待され、引き続き価格を圧迫することになるだろう。

加里については、経済制裁にもかかわらず、ロシアとベラルーシ産加里がまだ市場に出回っているが、カナダが生産能力を引き上げて、増産に進んでいる。また、2021~22 年に需要が大幅に減少して、2023 年に一部回復される見込みだが、2025 年まで 2021 年のレベルを下回るだろう。供給増と需要減の関係で、加里の予測価格を引き下げた。

DAPについては、価格を予測する前提に変更がないが、2022年下半期と2023年第1四半期に見られたように、供給過剰が引き続き価格を圧迫する一方で、中国とモロッコからの輸出の増加が需要の回復を相殺するだろう。また、2023年から2025年にかけて、主にモロッコのOCP社が約100万トンDAPの生産能力を新規稼働すると予想される。

- * アメリカのCF Industries社はオーストラリア Incitec Pivot Ltd.の子会社 Dyno Nobel からルイジアナ州にある Waggaman アンモニア工場を16億7500万ドルで購入した。Waggaman 工場のアンモニア生産能力88万トン/年、2022年の生産量が80万トンである。
- * ラオスからの報道によれば、ラオス国会は経済発展のために国内豊富な加里資源の開発を加速させ、将来には年間800~1000万トン塩化加里生産し、加里輸出大国になるように政府に要請した。2022年ラオスの加里肥料輸出金額が173億ドル、主に中国と東南アジアに輸出している。
- * 天然ガスは生産量の増加と暖冬による消費量の減少で、先物価格が最近30か月の最低値に落ち込んだ。3月末、アメリカの天然ガス先物価格が2.0552ドル/MMBtu（百万英国熱量単位）に下がって、2020年9月以来の最低価格となった。オランダTTF天然ガス先物価格も41.76ユーロ/MWhに下がった。天然ガスの価格下落により、アンモニアと尿素の生産コストも下がり、春シーズンに窒素肥料の国際価格がさらに下がる見込みである。
- * ノルウェーのYara社とカナダのEnbridge Inc.社は共同で超大型低炭素ブルーアンモニア生産施設を建設する意向書を締結した。このプロジェクトは26~29億ドルを投資して、アメリカテキサス州Corpus Christi市にあるEnbridge Inside Energy Centre (EIEC) に年間120~150万トンアンモニアを生産し、その生産工程で発生した二酸化炭素を捕獲処理する施設を建設し、2027~2028年に完成稼働する計画である。